

## 「打ち水」年表(抄)

特定非営利活動法人日本水フォーラム

浅井重範

「打ち水」の起源は、諸説ありますが、実際に人々に打ち水が広まっていく過程を想像してみると、当時の文学や絵画というものが非常に参考になります。さらなる「打ち水」の歴史探求を進めていただける方が現われることを期待しながら、その歴史にさらりと触れてみたいと思います。

-----

### 古代～中世

古代から中世始めの日本の代表的な文学といえば、和歌でしょうか。最古の歌集である「万葉集」を始め、「古今和歌集」などの勅撰和歌集をあたってみました。そこには「打ち水」はまだ登場していません。「枕草子」のような随筆や「源氏物語」といった小説も同様です。しかし、川や滝といった水辺の涼しさや夕立のあとの爽やかさを詠んだ歌が遺されています。

河風の涼しくもあるか打ちよする浪とともにや秋は立つらん  
紀貫之（「古今和歌集」、905年以後）

いはまよりおちくるたきのしら糸はむすはてみるもすすしかりけり  
藤原盛方（「千載集」、1188年）

涼しきは昨日の道の夕立に塵もあからぬ袖のあさ風  
正徹（「草根集」、1459年）

-----

### 近世

戦国時代・安土桃山時代を経て成立した「茶の湯」は、打ち水の誕生に深く関わっていると考えられています。茶聖・千利休の100年忌の元禄3年（1690）に成立したとされる「南方録」には、「三露」と呼ばれる、茶の湯における打ち水の作法が記されています。

露地ニ水うつ事、大凡（おおよそ）に心得べからず、茶の湯の肝要、たゞこの三炭・三露にあり、能々功者（よくよくこうしゃ）ならでハ、会ごとに思ふやうに成がた

き也、大概をいはず、客露地入の前一度、中立ちの前一度、会すミて客たゝるゝ時分一度、都合三度也、朝、昼、夜、三度の水、すべて意味ふかき事と心得べし、後の水を立水（たちみず）といふ

江戸も元禄期に入ると、俳諧や浮世草子に「打ち水」が登場するようになります。やはりこのあたりの時代に、打ち水が一般的になっていったのではないかと考えられます。

…（俄なれど明日はれな客を得る）

急雨のして炉路の打水

（六尺は懐手にてゐたりけり）…

武仙（「天満千句」、1676年）（連句の一部）

「…晝は露にもあらぬにうち水の葉末にとまりしを大夫ふかく哀み。…」

井原西鶴（「好色一代女」より、1686年）

水うてや蟬も雀もぬるる程

其角（「花摘」、1690年）

-----

江戸後期ともなると、様々な作品に「打ち水」の情景が描かれるようになります。「東都名所尽 愛宕山遠望図<sup>1</sup>」には打ち水をする町人や、「東都歳事記」<sup>2</sup>の「盛夏路上の図」には、下部に穴の開いた大きな桶をかつぎながら水を撒く男性が描かれています。

「…坐鋪廣し。客あれば庭へ打水し。釣燈籠へ火を點す。忠臣藏七段目の道具建の如し。…」

曲亭馬琴（「羈旅漫録」、1813年）

打水を礼に軒端の金魚売（1811年）

門へ打水も銭なり江戸住居

小林一茶（「希杖本」、1827年）

<sup>1</sup> 英泉（溪斎 英泉）作（天保期（1840-43）頃）。港区区立港郷土資料館所蔵

<sup>2</sup> 斎藤月岑 編纂、長谷川雪旦 図画、松斎雪堤 補画（1838年）。国立公文書図書館所蔵  
[http://www.archives.go.jp/exhibition/summerpopup\\_22/summerpopup\\_22\\_0101.html](http://www.archives.go.jp/exhibition/summerpopup_22/summerpopup_22_0101.html)

(異)『発句集続篇』「水をうつそれも銭なり江戸の町」

打水や虹を投出す大柄杓

正岡子規（1893年）

炎帝の威の衰に水を打つ

高浜虚子（1924年）

水打つて長屋づきあひなれにけり

森川暁水（1937年）

近代から現代へ。生活の中に密着していた「打ち水」は徐々にその姿を消していきました。しかし、平成の世に、「打水」は「打ち水大作戦」として新たな命を吹き込まれていくのです。

#### 「打ち水」年表

時代・年	出来事
古代～中世	「古今和歌集」、「千載集」、「草根集」などで水辺の涼しさが詠まれる
近世（戦国～安土桃山）	「茶の湯」の隆盛
近世（江戸）～近代	「南方録」に「三露」の記載 俳諧、浮世草子、浮世絵などで「打水」が描かれる
現代	平成15年8月25日、大江戸打ち水大作戦決行。以後、「打水」が社会的ムーブメントに。 日本全国そして世界で、推定参加人数は、のべ5,800万人以上（平成24年8月現在） <sup>3</sup>

#### <参考>

- ・ 高浜虚子「虚子編新歳時記増訂版」（三省堂 1951年）
- ・ 鈴木勝忠「川柳・雑俳からみた江戸庶民風俗」（雄山閣出版、1978年）
- ・ 熊倉功夫「南方録を読む」（淡交社、1983年）
- ・ 松山市立子規記念博物館「季語別子規俳句集」（松山市立子規記念博物館友の会、1984年）
- ・ 曲亭馬琴編「増補俳諧歳時記栞草」（岩波書店、2000年）

<sup>3</sup> 電話もしくはインターネット調査に基づく本部推定値

- 平成 18 年度特別展「UKIYO-E 一名所と版元」（港区立港郷土資料館、2006 年）
- 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター「研究支援データベース」
- 早稲田大学図書館「古典籍総合データベース」
- 西岡勝彦氏による電子テキスト「羈旅漫録／曲亭馬琴」  
<http://homepage3.nifty.com/taenia/shoko/kiryomanroku.txt>
- 海人の舟 <http://hysmt.hp.infoseek.co.jp/index.html>

(平成 25 年 7 月)